

ふるさと探訪

(4)

中腹に高津八幡宮が建つ八幡山(高津町)の頂上の山城跡が今年四月、「八幡山城址」として観光整備された。

同所は十六世紀の戦国時

代に、当地を治めていた大槻氏の居城・高津城があったと伝わり、動乱の世の口マンが漂う。最近、専門家によって城郭

高津町の「八幡山城址」

は中筋地区はもちろん豊里地区や福知山

吉高が寄進状を出したとい

る立地条件な

などの調査が行われ、市民の関心も高まっている。同八幡宮の境内から続く五百坪ほどの山道を登り詰めるると、付近の木々が伐採された丘陵地にたどり着く。この一帯が城跡。丘陵地のかかりに城址について

領主、大槻氏の居城の一つと考えられている。大槻氏は何鹿郡の各地に分かれ、そのうえ一次資料が少ないため城主は明らかでない。室町時代の文明十二年(一四八〇)に大槻盛雅が観音寺(福知山市)に霊供田を寄進したことや、天正二年(一五七四)には大槻

大槻氏の居城の一つか

東西の長さ300メートルの大規模な城郭

解説した看板と城址の配置図が立てられている。看板と配置図は、府大山崎町資料館勤務の学芸員で城郭研究者の福島克彦さんの調査を基に作られた。

看板の解説を読むと、高津城は同山の南へ連なる支峰と西の緩斜面に広がり、東西の長さ三百メートルもある大規模な城郭だったらしい。城は中間の自然地形を挟ん

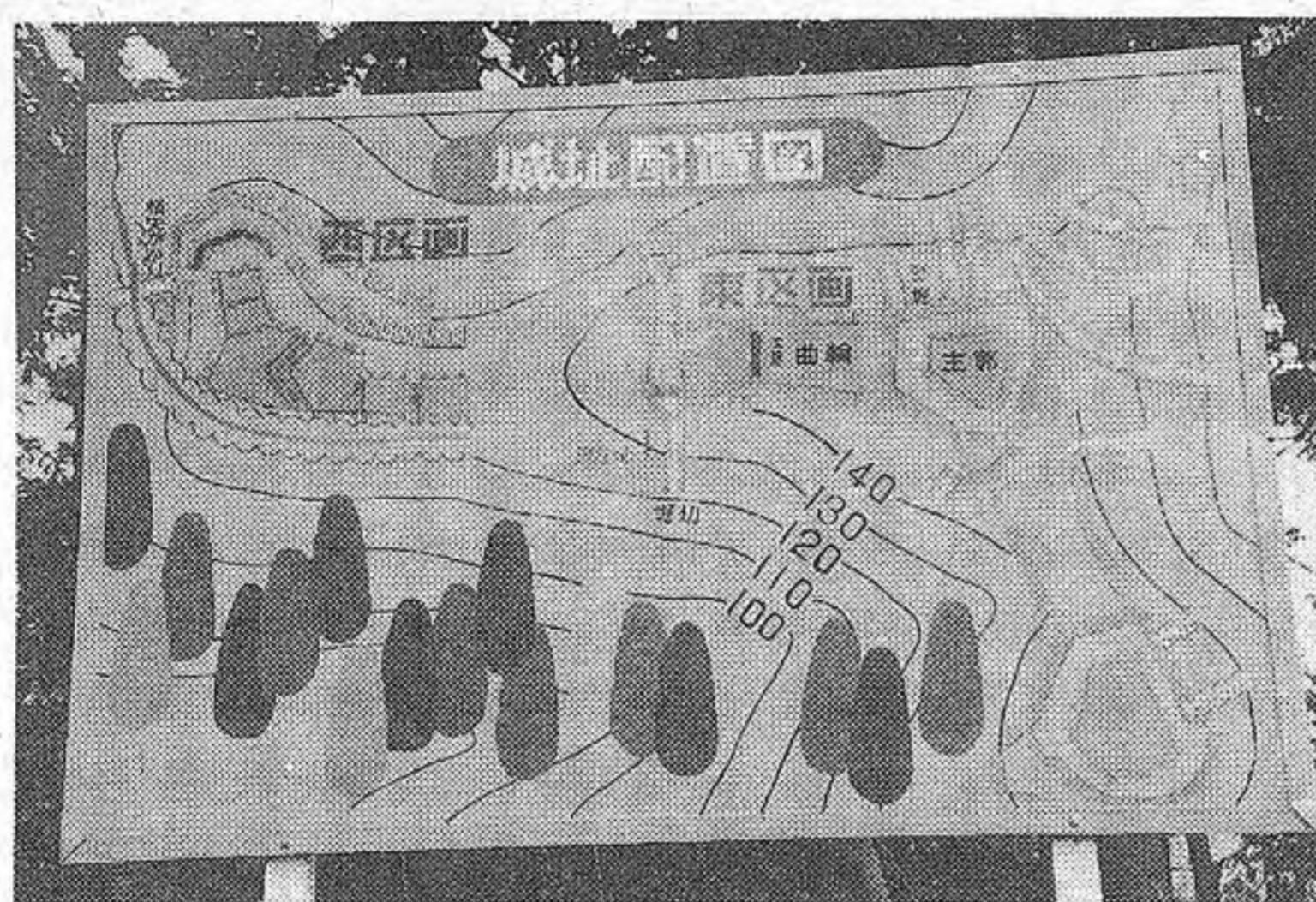
の場所をはずして集落への展望が効かない山頂に構えられていた点から時期が後というわけだ。高津八幡宮の創建に関しては、同宮に残る文亀元年(一五〇一)の勧進帳によると元慶五年(八八一)ごろと伝わる。

市まで一望できる。また、西区画は八幡宮から続く山道の左手側一帯。こちらはまだ整備されていない。福島さんが高津城について調査した内容は、綾部史談会が発行する冊子「綾部史談」百三十三号にも紹介されている。

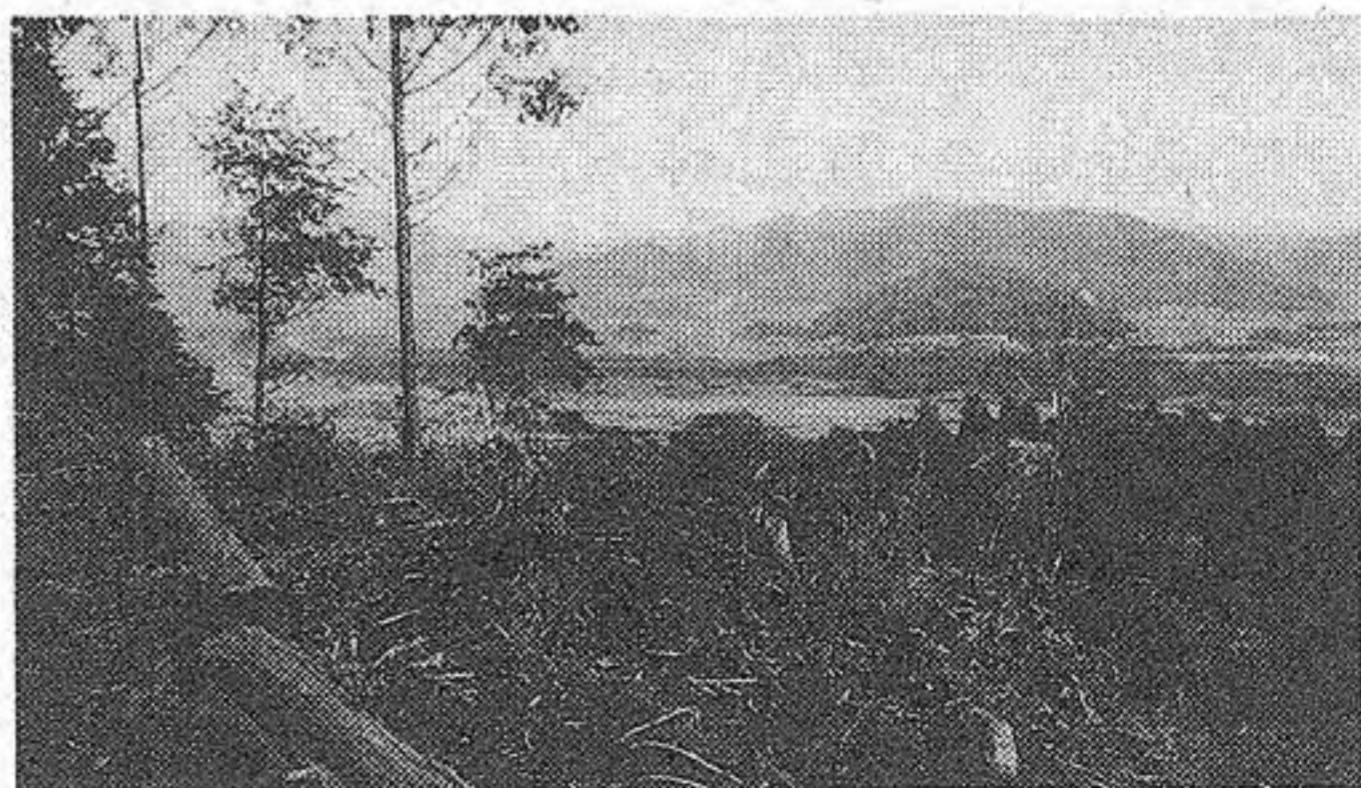
史伝を基にしても戦国時代の高津城と、九世紀の高津八幡宮の時代の差は明らかだが、福島さんが提言す

何鹿(いかるが)郡の在りある。つまり、城は八幡宮

今後、城についての考古学的な調査が期待される。



山道を登りつめた所に建てられている配置図には、高津城の城郭が分かりやすく紹介されている(写真はいずれも高津町で)



高津城の主郭があったという所からは中筋地区はもちろん、豊里地区や福知山市まで一望できる